

第3学年1組 国語科学習指導案

1 題材「夏草—『おくのほそ道』から」（6時間完了 本時3/6）

（1）題材目標

- ① 歴史的背景などに注目して古典を読むことで、「おくのほそ道」の世界に親しもうとする。
(知識・技能)
- ② 紀行文や俳句から芭蕉の思いを読み取り、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。
(思考・判断・表現)
- ③ 芭蕉の生き方や考え方に関心を持ち、自分の生き方と照らし合わせて人間、社会、自然などについて自分の思いや考えを伝え合おうとすることができる。
(主体的な態度)

（2）単元（題材）構想

古文は好きかと本学級の生徒に聞いてみると、6割近くの生徒が苦手意識をもっていた。理由は歴史的仮名遣いなど古文特有の文法への苦手意識である。「竹取物語」や「枕草子」、「徒然草」などを通して、古人の生き方について考えながら古文の世界を楽しめるような授業を展開してきたつもりだが、まだ十分でないということを痛感している。しかし、昨年度行った「平家物語」では、那須与一が年五十ばかりなる男を射殺した行動の是非を考える授業の実践で、歴史的な事象に関心を持ちながら、与一の行動について自分自身だったらどうであろうかと考え、主体的に意見を交わす姿が見られた。そこで、本題材で松尾芭蕉の「おくのほそ道」をとりあげ、芭蕉の旅への思いや人生観を読み取りながら、古典の世界から自分の生き方について考えることで、古典がけっして遠い存在ではなく身近なものであり、学ぶべきことが多いということを実感させたい。また、古典であるからこそ、自由に想像して読むこともできるのではないだろうか。芭蕉の旅の足取りや芭蕉が感動したであろうことを自由に話し合い、互いに想像力を高めることで、意見を磨き上げることができるであろう。さらに、初めての進路選択である受験を控えている3年生にとって、「おくのほそ道」を学ぶことは自分の生き方を考えるきっかけになるはずである。半年後の受験に向けて、今、自分の人生を考える岐路に立たされているわけだが、まだ自分の未来や人生についてイメージを沸かせることができていない生徒が多い。「おくのほそ道」の冒頭は「人生は旅である」という芭蕉の人生観を掲げており、芭蕉の生き方に学びながら、自分自身の人生について考える機会としていきたい。

本校の研究は「未来をたくましく生きる力を育む教育の創造」である。実社会・実生活の事象から問題を見出し、主体的に考え、その学びから新しくSOZO（創造・想像）しようとする生徒の育成を目指している。この生徒像に近づくために、題材の導入では、**江戸時代の芭蕉のした旅の支度と現代を生きる自分がする修学旅行の支度を比較しながら、芭蕉の旅への決意・覚悟について読み取っていきたい。**人生の真の意味をつかむために、庵を捨てて旅に出た芭蕉の人生観は、生徒自身の生き方を考えるきっかけになるものであろう。平泉の部分では、高館と光堂を見て芭蕉が感じた無常観について考えさせたい。自然に対する人間の無力さを感じつつも、人間のもつ力を感じて感動する芭蕉の心に触れ、無常観について考えながら、人間のもつ可能性について考える機会としたい。単元のまとめでは、「おくのほそ道」の俳句の中から心惹かれたものを選び、その感想を話し合うことで、芭蕉が旅先で感じ取った感動を共感させたい。**また、随時ICTを活用することで、江戸時代の生活や芭蕉の旅の足跡を見せ、興味関心を高め、古典への距離感をなくす工夫をしていく。授業ごとに、課題整理後にSOZOの時間を十分に確保し、古典を通して、現代の自分の生き方を見つめ、自分の未来を考えていける生徒の育成を目指す。**

（3）題材計画

学 習 内 容	研究の手だて	時 間
・おくのほそ道と松尾芭蕉について知ろう。	(研究の手だて②—B)	1
・芭蕉にとって旅とは何なのか考えよう。	(研究の手だて①—A) (研究の手だて②—B)	2 (本時 2/2)

	(研究の手だて②-C) (研究の手だて③-D)	
・高館や光堂での芭蕉の思いを考えよう。	(研究の手だて①-A) (研究の手だて②-B) (研究の手だて②-C) (研究の手だて③-D)	2
・心に響く俳句を鑑賞し合おう。	(研究の手だて①-A) (研究の手だて③-D)	1

2 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- ・芭蕉の旅への覚悟から芭蕉の人生観を読み取り、自分の今後の人生について想像をめぐらすことができる。
(思考力・判断力・表現力)

(2) 展開

段 階	生徒の活動	教師の活動
想像 (4)	1 修学旅行に行くときに自分がどのような支度をするのか考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お金。お小遣いは9000円まで。 ・お弁当 ・おやつ。300円以内。 ・着替え、旅行鞆 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・①修学旅行で行く金沢の資料を貼付し、自分が旅に出る前にどのような支度をするか考えることで、芭蕉の旅への思いを考える学習課題につなげる。(研究) ・本時の課題を黒板に貼付する。 ・学習課題を板書する。
課題 (1)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 芭蕉にとって旅とはどのようなものだろうか。 </div>	
究明 (35)	3 教師の範読に続いて古文を音読する。 4 芭蕉のした旅支度を考え、自分たちの修学旅行の支度と比較して、違いを発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【芭蕉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・股引の破れを繕う。・道中笠のひもを付け替える。 ・三里にお灸を据える。 ・庵を人に譲って杉風の別荘に移る。 <p>【自分たちの修学旅行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金、着替え、カメラ、しおり、るるぶ、おやつ <p>【違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金を持っていないの？どうなっているのだろうか。 ・三里にお灸を据えているのは、体調管理みたいなものかな？ ・旅行に出るときに、普通は人に家を譲らない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・古文のリズムを意識しながら読むように助言する。 ・現代文を読みながら、芭蕉のした旅支度に線を引くように指示する。 ・②芭蕉のした旅支度をタブレットで調べながら確認する。(研究) ・芭蕉の旅支度を発表できた生徒を称賛する。 <p>「芭蕉の旅支度と修学旅行の支度では何が違うのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの生徒同士で話し合うよう指示する。
	5 芭蕉はなぜ人に庵を譲ったのか考え、発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・家を売ってお金を得るため。 ・しばらく帰ってこないの、家をいらないと考えたから。 ・「予も」とあるので、古人と同じように旅先で死んでしまうかもしれないと考えたから。 ・家があると、辛い旅になったときに、甘えて帰ってきたくなるかもしれないから。 </div>	<p>「芭蕉はなぜ、人に庵を譲ったのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②人に庵を譲った行動に着目し、なぜ譲ったのかを考えることで芭蕉の旅への思いの焦点化を図る。(研究) ・話し合いを活発化するように机間指導しながらノート意見を把握し、意図的指名をする。 ・自分の考えの根拠となる叙述を示しながら発表することができた生徒を称賛する。
	6 芭蕉にとって旅とはどのようなものなのかを考え、発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「月日＝永遠に旅を続ける旅人のようなもの」とあるから、旅は終わりのないものだと思っている。 ・「船頭や馬子＝旅そのものがすみかである」とあって、船頭や馬子みたいな生き方に憧れているから旅が好きでたまらない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「芭蕉にとって旅とは何だろう」 ・前半の記述や芭蕉の旅支度から、芭蕉にとって旅がどのようなものであるのかを考えるように助言する。 ・話し合いがスムーズにいかなかったときは、近くの生徒同士で話し合うように指示する。 ・②「なぜ芭蕉は旅をするのか」その理由を考えることで、芭蕉にとって旅がどのようなもの

<p>整理 (3)</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「古人（昔の詩人たち）＝旅の途中で亡くなっている」とあるので、旅の途中で死んでもいいと思っている。 ・そぞろ神、道祖神に誘われていると感じるくらい行きたくて仕方がないもの。 ・旅先で一生を終えてもいいくらい、旅をしたい。 ・旅は人生そのもの。人生は旅である。 ・いい俳句を作るために、旅先でいい出会いをしたい。いろいろなものを見たい。 </div> <p>7 本時の課題のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉にとって、旅は人生そのものである。 ・旅の中でいい俳句を作り、成長したい。 ・自由に生き、旅の中で死ぬ覚悟である。 </div>	<p>のなのか焦点化を図る。(研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠となる叙述を示しながら発表することができた生徒を称賛する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中心となる意見に線を引き、まとめとする。 ・本時の学びのきっかけから、板書を使って本時の学びを振り返る。
<p>創造 (7)</p>	<p>9 本時の学びを終え、SOZOし、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉のように旅に出て、いろいろ経験を積みたい。 ・自分も人生をかけるようなものを見つけたい。 ・昔の人と現代の私たちの旅への思いや旅への覚悟の重さは全く違うものだな。 ・芭蕉のように向上心をもちたい。 ・今はコロナ禍で気軽に旅行に行けないけど、行けるようになったらまた行きたいな。 ・修学旅行でいい景色を見かけたら自分も俳句を作ってみるのもいいかも。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・③本時の学習を終えて、SOZOするように指示する。(研究) ・自分事としてこの授業を振り返ることができた生徒を称賛し、場合によっては意図的指名をしてSOZOしたことを学級に広げて時間を閉じる。

(2) 評価

- ・芭蕉の旅への覚悟について考え、芭蕉の旅への思いを自分の意見をまとめて発表することができたか。(思考・判断・表現)

——活動6、7の様子、発表から